

第9回射水市学校部活動在り方検討会 議事録

1 会 議

期 日：令和7年7月7日（月） 15:30～17:00

場 所：射水市役所会議室401

出席者：

（委 員）金谷会長（教育長）、京角副会長、六渡委員、加藤委員、
杉高委員、金委員、中澤委員、岡山委員、漁委員、櫻井委員、
原委員、浦島委員

（事務局）作道教育委員会事務局長
星野事務局次長兼生涯学習・スポーツ課長
小谷内事務局次長
佐藤学校教育課長
川渕課長補佐、中林副主幹、道上主査、稲田主査（学校教育課）
明神係長、青木主任、小林スポーツ推進コーディネーター
（生涯学習・スポーツ課）
宮本専務理事、京角事務局長、小田主事
（（公財）射水市スポーツ協会）

2 概 要

- ・開会の挨拶（金谷教育長）
- ・議事進行（金谷会長）
- ・報告事項
 - （1）令和7年度 地域クラブ活動の状況について
 - （2）令和7年度 新規モデル7部活動について

- ・協議事項

令和8年度以降の地域クラブの在り方について

【委員からの意見】

（委員）

平日の地域展開には、指導者と場所の確保が心配だ。

場所の確保については、放課後は活動できるが、夜間の学校開放は現時点で活動を行っているクラブやサークルとの兼ね合いが非常に大きな問題となる。

指導者の確保については、指導者になりたいが、人や運営費の管理が難しいため、断念する方もいる。そのような方に対して、補助や運営費の助成、システムの提供などの支援を行うことはできないか。今後、地域展開を進める際には、指導者支援を検討していくことが大きな課題だ。

現在、剣道は4つの地域クラブで地域展開している。剣道クラブを平日に行い、土日に地域クラブの指導者として活動している方は、平日も

土日も活動していることとなる。土日の活動も剣道クラブとして行っていきたいとの声もあがっている。しかし、現在、剣道クラブとして活動を行う際、活動場所の使用料や運営費は、受益者負担となる。受益者負担に対して市がもっと補助してくれれば、活動しやすいという意見がある。例として、報償費等をクラブに一括して入金して、それを運営費にすれば、活動しやすくなるため、検討していただきたい。

(委員)

保護者の立場としては、子どもには入りたい部活動に希望通り入って欲しいが、平日の送迎は問題がある。送迎できる保護者がいない場合はどうすればよいのか。バスなどで活動場所まで移動できるのであれば送迎の必要はなくなる。

平日の放課後に活動すると、指導者が自身の仕事を早く切り上げ、指導することが負担となる。平日の地域展開は、保護者と指導者の負担が増えるため、難しいのではないか。地域展開の際、送迎等の問題に関してアンケートを取ったのか。

(事務局)

休日の地域展開に関する保護者へのアンケートにおいて、送迎に負担があるという意見は非常に多い。しかし、3年間のアンケート結果の推移から負担と感じる保護者は年々減少傾向にある。送迎等に負担があることは理解しているが、市として援助する形が見つからない中で、保護者の方には、ある程度、送迎に対する理解をいただいていると評価している。事務局としても休日だけでなく平日も送迎を行うことは課題だと考えている。できるだけ自分の学校で活動できるように活動場所に関して検討している。

(金谷会長)

平日の活動を夜間に行うと、現時点で夜間に学校開放を使用している団体と多くの競合が起きてしまうという事実があるため、放課後の時間帯に学校が使用できるのが理想的である。しかし、放課後の時間帯に指導者を確保できるかという問題があり、教員をどう扱っていくかという課題にも繋がる。解決につながる方法を今後、模索していく必要がある。

(委員)

すでに1つの学校だけでは部活動が成り立たないところも増えてきている。それに伴い、放課後に活動すると他校と1つの場所に集まり活動せざるをえない状況になる。そうすると子どもたちの移動は大変難しくなる。子どもたちが自転車等で行ける範囲の中で活動できるクラブが

いくつかあれば、部活動を選びやすくなる。

子どもがある程度、移動しなければいけないのは致し方ない。コミュニティバス等の移動手段の環境整備も考えていく必要がある。

(委員)

平日も地域展開を行う際、大会出場は学校単位ではなく、地域クラブで出場することになる。個人競技は個別に練習が行えるが、チームスポーツは平日、休日ともにチーム練習を行わなければならない。そのことを保護者、生徒が理解してもらえるように働きかけていかなければならない。

同じ競技でも年度ごとに入部する生徒数が変動している。新入生にチーム編成等の説明を行っているが、3年生が引退するなどの事情で、年度途中で部活動から地域クラブになる可能性もある。チーム編成に関しても年度ごとに形が変わってくる。平日の地域展開は、子どもの満足度に対する課題もある。

(金谷会長)

大会の出場に関して規定等はあるか。

(事務局)

中体連の大会は概ね地域クラブの出場が可能となっている。令和7年度で地域クラブの出場に不都合があるのは陸上競技のリレー、駅伝だけである。文科省の方針に基づいて、令和13年度末に向けて緩和すると考えられる。1つの地域クラブから複数のチームが出場できるようにするなど地域クラブが参加しやすい流れになってくれればと思っている。

中体連の大会において、令和8年度以降の全国大会を廃止した競技もあり、廃止されていない競技も今後、廃止される可能性がある。廃止となる競技に関しては、競技団体が代替の全国大会開催を考えている。それらの大会に地域クラブがどのような形で参加できるのか明確に回答できないが、中体連主催の大会において地域クラブの出場要件が変わってきている現状はある。

(委員)

中文連が主催する大会は中文祭しかなく、これはコンクールやコンテストではない。美術部に関しては、活動場所や物の管理、指導者の確保が難しいため、現在の活動を各学校で行っているから実施が可能となっている。この活動が1つの場所に集まるとの活動となると作品等の管理が難しくなる。現状、美術に関しては、教員だよりとなっているところが多い。

(委員)

児童生徒数は年々、減少傾向であり、今までのように各学校で多くの部活動を成立させることは、大規模校以外は難しくなる。小学校では、この10年間の働き方改革などにより、先生が陸上や相撲等の指導に関わることが少なくなっている。中学校部活動においては、顧問の先生の指導のもと、活動を行うことができていた。地域展開になり、先生の負担は少しずつ解消されている。

今後、平日において地域展開を進めていく際には、小学校の子どもたちに対して説明を行っていく必要がある。

現在の小学生も中学生になる際にクラブチームでの活動を望む者もいるため、各学校部活動で部員数を確保するのは難しくなる。そのため、早い段階で部活動とクラブを一体化していく形になってほしい。

(委員)

総合型地域スポーツクラブは運動をしたい方、指導者、場所を確保して、スポーツをライフスタイルの中に取りこんでいただくことを課題とし、仕事にしている。

総合型地域スポーツクラブは現在、中学校部活動の地域展開への協力が促されている。日本スポーツ協会の登録認証制度は地域展開の受け皿になりえる活動を行うことが要件の1つだ。

地域展開を進める中で指導者が指導だけで手一杯となり、運営に手が回らないこともあるかと思う。その部分において、総合型地域スポーツクラブが何か手伝うことでスムーズに事が進むと考えられる。

総合型地域スポーツクラブは設立当時から受益者負担の理念から、必要な金額を会員に払っていただき、安心して安全なスポーツができるようにしてきた。

平日の夜の学校開放を多くの団体が使用しているが大人の団体の使用時間は19時30分から21時程度となることが多い。平日の地域展開をしたクラブは、19時30分まで活動を行えるようにし、19時30分から大人の団体が使用するという形も考えていただきたい。

地域クラブを運営していく際には子どもの保険はもちろんのこと、指導者の損害賠償保険なども大切だ。受益者負担において、中学校部活動から移行した生徒に対して今までと同じように助成等の支援を行えば、運動する子どもは減らないと考える。

(委員)

指導者の問題において、地域スポーツクラブで競技を行ってきた大学生が中学生に指導を行い、その指導を受けた中学生が大学生になった際

に同じように中学生に教えるというサイクルを作り上げているところもある。現在は大人の指導者から子どもへの指導が主となっているが、学生が学生に対してボランティアスタッフのような形で一緒にスポーツを行っている事例もある。

今後の少子化や大会廃止等の状況を考えると子どもと大人が一緒にスポーツを楽しめるようなニュースポーツなどのレクリエーション的な活動の形もあるのではないか。従来の部活動という形にこだわらず、大人のサークル等に子どもも加わるような活動形態でもいいのではないか。

(委員)

芸術文化協会では鑑賞会などの他者の作品に触れながら話し合うという場を大事にしてきた。しかし、そのような活動は土日にはできないため、参加者が減少し、活動しづらくなってきた。市から助成をいただいているこのような活動は大変ユニークで、教育的な場であるので継続していきたい。

もともと多くの教員が美術に携わってきたが、高齢化に伴い、これらの活動を支えるための力が減少してきたため、文化的な活動を支えていきたいが難しい状況になっている。

(委員)

吹奏楽部は、コンクールや演奏会に向けて練習をしている。

異なる曲を練習している2つの吹奏楽部が1つの会場で練習するのは難しいため、地域展開する際は4月当初に吹奏楽連盟に登録した単位で活動することが重要だ。

指導者確保が難しい状況を考えると、活動団体をできるだけまとめていくことも必要かと思う。

(委員)

これまでは教員の熱意で活動できていたが、今後、財団でも可能な限り協力したい。

困窮家庭の格差について、財団としても文化施設等を利用される方を確保したいという思いから、困窮家庭にはチケットを配布するなどの支援を行ってきた。受益者負担の際には、そのような方に対する支援について検討していただければと思う。

(委員)

保護者の立場として、子どもの送迎が大変だ。これまで中学校では、部活動紹介が行われ、入りたい部活を選んでいた。スポーツとの出会い

方という点で、今後、地域展開を行った際には書面等だけでの紹介になるのが心配だ。

指導者を目指す方やクラブを立ち上げたい方に対して、今後どのように展開していくかについて説明を行ったほうがいい。地域展開に関わる指導者に対してどのように要請を出しているのか。

(事務局)

指導者の確保については、部活動の顧問の教員に地域展開の趣旨を説明し、指導者をしていただけないかと要請した。また、競技団体に対しても同様に要請し、双方で地域指導者として活動できるか確認を行った上で方針等を定めている。

各競技において地域展開の指導者になりたいという方がいる場合は、競技団体等にお問い合わせしていただき、話を進めていくことができたらと思う。

・その他

今後のスケジュールについて説明。